

平成28年2月25日

会員各位

美しい多摩川フォーラム事務局

## 平成27年度 第2回 三部会合同部会

◆ 2月25日(木)、美しい多摩川フォーラムの平成27年 第2回 三部会合同部会が開催されました。概要は下記のとおりです。

- ・開催日時：平成28年2月25日(木) 15時～16時半
- ・開催場所：立川グランドホテル 3F サンマルコ
- ・出席者：部会長、副部会長、運営委員、アドバイザー、会員等

### ◎ 三部会合同部会の概要

1. 開会
2. 部会長挨拶
3. 講話

講師：東京都建設局南多摩東部建設事務所工事課河川設計係主任  
飯島 幸子 氏

テーマ：「大栗川の環境整備について」

### 4. 経過報告

- (1) 第2回・「多摩川流域の魅力再発見事業」連絡協議会開催(12/22)【資料1】
- (2) 第3回・「多摩川流域の魅力再発見事業」連絡協議会開催(1/13)【資料1】
- (3) 東京都・地域資源発掘型実証プログラム事業(多摩川カヌー駅伝等)公表(1/15)【資料1】
- (4) 第4回・「多摩川流域の魅力再発見事業」連絡協議会開催(2/22)【資料1】
- (5) 事務局用パソコンの更新について(1/28 運営委員会)【資料2】
- (6) 平成28年度事業計画骨子・同予算(事務方素案)(1/28 運営委員会)【資料3】
- (7) 東北酒蔵街道に係る「酒蔵アイデアソン」開催(2/4)【資料4】
- (8) 公益財団法人とうきゅう環境財団・2015年度多摩川およびその流域の環境浄化に関する調査・試験研究(「多摩の物語」関係)進捗報告について【資料回覧】  
～当面の予定～
- (9) 東京都・地域資源発掘型実証プログラム事業(多摩川カヌー駅伝等)実施(28.3/5～3/6)【資料1】
- (10) 福島県広野町にて桜の植樹式開催(3/27：大田区、東北・夢の桜街道推進協議会)
- (11) 第6回・桜ウォーキングと桜守学校開催(3/30)【資料5】

～平成28年度の予定～

- (1) 多摩川夢の桜街道～桜の札所巡り事業
  - ①4/6：第7回“美しき桜心の物語”の語り会（大田区・密藏院大慈閣、語り部・平野啓子副会長）【資料6】
  - ②4/8：羽村取水堰と玉川上水～福生多摩川堤防、美しい多摩川フォーラム、羽村市、福生市、リビング多摩、大谷桜守、田村酒造場
  - ③4/13：高尾・多摩森林科学園～南浅川桜並木と陵南公園、美しい多摩川フォーラム、京王電鉄、リビング多摩、大谷桜守、多摩森林科学園
- (2) 東北・夢の桜街道～桜の札所巡り事業（東北・夢の桜街道推進協議会）
  - ①4/29：第5回“美しき桜心の物語”の語り会（七十番・秋田県角館武家屋敷・語り部・平野啓子副会長）

5. 意見交換

- (1) 平成28年度事業計画骨子・同予算について【資料3】
- (2) 多摩川フォーラム設立10周年記念事業（平成29年度）について【資料7】
- (3) その他

6. 部会長総括

7. 閉会

1. 開会（初参加者紹介および資料確認）

（事務局）

定刻になりましたので、美しい多摩川フォーラム平成27年度第2回三部会合同部会を始めさせていただきます。始めに当フォーラムのテーマソングである「多摩川の歌」の普及策の一環として、本日は混声四部合唱バージョンをお聞き下さい。本日はじめて部会にご出席される方をご紹介します。

（東京都建設局 南多摩東部建設事務所長 中村 守宏 様）

中村と申します。本日はよろしくお願ひいたします。この後、飯島のほうからお話をさせていただきます。このような貴重な機会をいただき、有り難うございます。多摩川は重要な河川です。今回の講話のテーマである大栗川は、今まさに工事中であり、水が濁っている状況ですが、一日でも早く整備を進めていきたいと思っております。関戸橋でも架け替え工事が始まっております。また、下流の稲城大橋では、耐震補強の工事を行っております。引き続き、当事務所の河川事業につきまして、ご理解とご協力をお願いいたします。

（調布市 環境部 環境政策課 環境保全係 主事 田辺 隆文 様）

田辺と申します。調布市の南側には多摩川が流れており、多摩川の河川敷を使って、

大人から子どもまで学べる環境学習の場として、多摩川の自然を活用しています。その他、多摩川クリーン作戦というイベントも年に2回実施しており、調布市民の方に参加してもらっています。多摩川フォーラムさんには、毎年6月に実施している調布市環境フェアにブースを出展していただいております、来年度も出展していただければ幸いです。

(株式会社東急百貨店 MD企画部MD計画部 柴田朱子 様)

柴田と申します。今回初めて参加させていただきますので、多摩川フォーラムの取り組みを学んでいきたいと思っております。弊社では、毎年6月に「ココエコチャリティー」というチャリティーイベントを開催しており、オリジナルグッズを作成して、売上金額の一部を多摩川フォーラムさんに寄付しております。今年も同様の取り組みを予定しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

有り難うございました。東急百貨店さんにおかれましては、毎年、「ココエコチャリティー」を通じて、多摩川フォーラムにご寄付いただいております。有り難うございます。なお、本日は、教育文化部会長の平野副会長が海外出張により欠席となりました。それでは、薮田部会長、渡邊部会長よりご挨拶をよろしくお願いいたします。

## 2. 部会長挨拶

(薮田部会長)

皆さんこんにちは。今日は、この段階で、皆様に宿題をお出しします。多摩川フォーラムは、平成29年度に10周年を迎えます。会員の皆さんからお知恵を拝借し、こういう企画が良いのではないかなど、大いに意見交換をしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。部会終了まで1時間半ありますので、その間に考えていただければと思います。

(渡邊部会長)

皆さんこんにちは。今日、青梅では雪が降り、寒い日ですが、都心は大丈夫でしたでしょうか。このように寒い日にも関わらず、部会にご参加いただき、有り難うございます。本日は、ご講話をいただいた後、経過報告、意見交換と続きます。盛りだくさんの内容になります。特に意見交換では、多摩川フォーラム設立10周年記念事業についてご意見をいただきますので、よろしくお願いいたします。

(薮田部会長)

有り難うございました。それでは事務局に進行をお願いいたします。

### 3. 講話

(事務局)

今日は、「大栗川における環境整備」というテーマで、講師に東京都南多摩東部建設事務所工事課河川設計係主任飯島幸子様をお迎えし、お話をいただきます。フォーラム会員の皆様には、流域の市民と行政が一体となった河川整備に関する現状認識や問題意識を高めていただけたら有り難いと存じます。

ここで、講師の飯島幸子様のプロフィールをご紹介します。今年度キャリア活用採用で入都、工事課河川設計係に配属され、現在、河川や調節池の設計の仕事に従事されています。入都前の前職では、自然環境や野生生物に関する調査・計画・設計等の業務を担当されていました。前方のスクリーンにパワーポイントの画像が映し出されますので、ご覧ください。

それでは、飯島様、よろしくお願いいたします。

(東京都建設局 南多摩東部建設事務所 工事課河川設計係 主任 飯島 幸子 様)

飯島と申します。本日は、大栗川の環境整備について説明させていただきます。どうぞよろしくおねがいたします。

まず、東京都の河川の概要を説明させていただきます。ご覧の図は東京を流れる河川の図面となっています。図のように東京都では大きな一級水系と言われるものが青色で示した多摩川水系、茶色で示した荒川水系、黄色で示した利根川水系、緑色で示した鶴見川水系の4つあります。大栗川は多摩川水系の1級河川です。

南多摩東部建設事務所は、南東建と呼ばれています。私たちの事務所では、町田市、多摩市、稲城市を管轄しております。管轄する河川は、水色で示した多摩川水系、緑色で示した鶴見川水系、そして、オレンジ色で示した独立水系の境川があります。そのなかで、今回の発表では、多摩川水系の大栗川で実施している環境整備について説明いたします。

対象とする大栗川の概要をご説明いたします。大栗川は赤い色で着色した部分です。大栗川は、八王子の鎌水付近を起点とし、ほぼ西から東に流れています。多摩市に入り、連光寺で乞田川と合流します。乞田川合流点より下流は、国土交通省の管理となっています。東京都の管理区間は流域が42.6 km<sup>2</sup>、延長が15.3 kmです。南東建では多摩市内の3.2 kmを管理しています。かつては蛇行が激しく、流下能力が低い河川でしたが、多摩ニュータウンの開発に合わせて、河川改修を行いました。河川改修は、昭和42年度に着手し、昭和61年度には完了しています。河川改修により、現在のような蛇行の少ない広い川になりました。

それでは、大栗川の現状と課題についてご説明いたします。大栗川は先ほど述べましたとおり、昭和61年度に河川改修が完了しました。しかし現在は河川改修から約30年以上が過ぎ、護岸の老朽化が進んでおります。一部では防災工事により安全性の向上を図っているところですが、左側の写真の通り、平成20年8月の豪雨では一部の護岸が壊れました。また、右側の写真の通り護岸が老朽化し隙間から草が生えてきている状況です。このような現状をふまえ、護岸の安全性の確保、再整備が必要となっています。

また、大栗川は、治水機能を最優先して整備を進めたため、護岸はコンクリートの張りブロックとなっていて、緑が乏しい状態です。また管理用通路から川側に入る施設もないため、水辺に近づくことも困難です。

このような現状と課題を踏まえ、大栗川では、老朽化した護岸を再整備して安全性を確保するとともに、護岸整備にあわせて環境整備を行うという方針を立てました。整備方針に従い、東京都では、平成21年度より環境整備を開始しました。

具体的な整備内容として、大きく3つの内容があります。大きな目標として、水と緑に囲まれ、環境と調和した都市の実現を目指し、①河川緑化を推進するために護岸の緑化や植栽を行います。②親水性を確保するため水辺に親しめる散策路や階段を整備します。③護岸の安全性を確保するため、緑化にあわせ護岸を整備し、老朽化した護岸の安全性を高めます。

大栗川の環境整備は、地元の自治会や、河川愛護団体などの皆様と話し合いながら進めています。これは、毎年、設計段階で開催している、意見交換会の様子です。意見交換会は地元住民の方々の、大栗川に対する意見を知ることのできる貴重な場です。

意見交換会では、住民の方々からさまざまな意見が出されました。そのなかのいくつかを紹介します。

- ・ 聖蹟桜ヶ丘というさくらにゆかりのある場所でもあるので、桜並木をつくってほしい
- ・ いかにも人工物とならないように、コンクリートなるべく目立たなくしてほしい
- ・ 川沿いをずっと歩いて散策できるようにしてほしい
- ・ 川に入って遊べるように、水面まで下りられるような護岸の形にほしい
- ・ かつて生息したホタルが復活するように、きれいな大栗川にほしい

というような、工夫・検討すれば設計に反映して実現できる可能性のあるものから、すぐには実現が難しいと思われるようなものも含め、さまざまなご意見をいただきました。

それではこれから、これまで実施している大栗川の環境整備の状況をご説明いたします。こちらが河川を横から見た図で、標準的な環境整備の内容を示しています。まず桜並木を作ってほしいとのご意見を受け、緑化の推進と合わせて桜やシバを植えています。コンクリートが目立ちすぎないようにとのご意見を受け、護岸の安全性を確保するための整備に合わせて、植物が生育できるような材料で護岸の整備をしています。散歩道が欲しいとのご意見を受け、親水性の確保を図るため、護岸の中断に遊歩道を整備しています。また、水際に近づけるように、階段やスロープを整備しています。蛸が復活するような川づくりとのご意見を受け、川幅を広げ、生物の生息空間を確保しています。

それでは、これまでに整備した箇所を整備状況について、ご説明させていただきます。これは、平成21年度から22年度にかけて整備した場所です。左が、整備後5年が経過した昨年夏の状況です。当初はコンクリートが目立っていましたが、現在は緑が多くなりました。

河川緑化の推進を目的とした整備状況をご説明いたします。整備前はコンクリートが目立ちましたが整備後一年で、緑化ブロックには植物が生育し、緑が増えています。

河川緑化の推進を目的とした整備内容を詳しく説明いたします。護岸上段は、芝を張り、桜を植え、将来的に桜を楽しんでもらえるように整備しています。

こちらでも河川緑化の推進を目的とした整備内容です。桜やシバを植栽した下側の護岸は、植物が生育できるような構造となっており、自然に植物が生えてきております。

続いて、親水性の確保を目的とした整備状況をご説明いたします。整備前はコンクリートの護岸で歩道もなく水際には近づけませんでした。整備後は、散策路、スロープ、階段を整備し、親水性を向上しました。

親水性の確保を目的とした整備内容を詳しく説明いたします。護岸の中腹に遊歩道を設け、川面を眺めながら散策ができるようになりました。遊歩道は白色系の平板ブロックで舗装しています。

こちらでも親水性を確保する目的で整備した階段の状況です。水辺に下りられるよう、おおむね100mに1箇所、階段を設けています。階段は、管理用通路から散策路、散策路から河床へとアクセスできるように整備しました。階段が河床まで直線的に配置されていると落ちそうで怖い、とのご意見を住民の方からいただいたことから、互

い違いに配置しました。

また、平成22年度から、新たにスロープを設置しています。スロープは、車いすの方々が利用できるよう、バリアフリーの基準に従い5%勾配となっています。

このような整備を行った結果、住民の皆様より、「緑が増えて、視覚的にも夏の暑さが和らぐ」という意見や、「散策路や階段で、以前より川に近づけるようになり、水に親しみやすくなった」という意見、「護岸がきれいに整備されて、散歩するのも気持ちがいい」というような、肯定的な意見をいただきました。

続いて今後の大栗川の環境整備についてご説明いたします。こちらは現在工事中の場所の図面です。これまでの環境整備と同様、護岸に緑化ブロックを設置し、散策路を整備し、川幅を広げ生物の生息環境を作っています。また、隣接する小学校児童からの要望を受け、小学校の前に階段やスロープ、河床には川を渡れるように飛び石を整備しています。

こちらが1月上旬の工事の状況です。大栗川の後ろに見えている大きな建物が小学校で、小学校の前に階段やスロープを整備している状況です。東京都ではより良い大栗川になるように、これからも①河川緑化の推進、②親水性の確保、③老朽化した護岸の安全性を高める、環境整備を進めます。

この写真は、大栗川の愛護団体が主催している「大栗川水辺まつり」の開催状況です。このまつりは10年以上続いており、この写真は2014年7月15日の開催状況です。環境整備を終えた場所を、いかだレースで利用していただいています。川は、今の子どもたちの世代や、ずっと先の世代まで受け継いでいく貴重な財産であることから、地域にとって、より安全で快適な河川環境整備を進めていきます。これからも、みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

以上で、説明を終了いたします。ご清聴ありがとうございました。

(事務局)

有り難うございました。せっかくの機会ですので、ご質問のある方は挙手をお願いします。

(薮田部会長)

河川の水質が悪化するのには、水量が主な原因だと聞いたことがありますし、1997年の河川法改正の中で、親水性を実現するためには市町村の役割が重要であるとも聞いておりますが、ひとつ質問したいのは、大栗川の整備の際、市民の方のご

意見を伺ったとのことですが、この時の多摩市の役割とはどのようなものだったのでしょうか。

(飯島 様)

意見交換会には多摩市さんにも出席していただいております、河川整備については私どもが意見を伺い、まつりやゴミ拾いについては多摩市さんが主催で開催していただいております。また、通路の管理についても多摩市さんが行っています。整備は私どもで、その後の利用は多摩市さんのほうで活用いただいております。

(八王子市 水循環部水環境整備課長 守屋 和洋 様)

八王子市に昔から住んでいる方が、「おおぐりがわ」ではなくて「おおくりがわ」だと言っていますが、東京都さんでは「おおぐりがわ」で統一されているようです。正しくはどちらなのでしょう。

(中村 様)

非常に悩ましい話です。昔から「おおくり」と「おおぐり」という表記が両方あり、ショックを受けました。この件については、市民から都議会議員、国会議員まで話がいきました。現在調査中ですが、残念ながら決め手が無い状況です。しかし、いずれは同じ表記に統一しないといけないと思っております。

(山崎副部長)

今日は大栗川のお話ですが、三沢川（多摩川水系の支流で主に神奈川県川崎市および東京都稲城市を流れる一級河川）も管轄されていると思います。東京都と比べて、川崎市側の三沢川は良くありません。コンクリート張りでも生き物も余り生息していません。一方、東京都が管理している三沢川は、非常に環境が良いです。稲城市を流れる三沢川は、親水性が良く、生き物も沢山います。同じ川なので、行政区が変わっても連携は取れないのでしょうか。

(中村 様)

裏話をさせていただきます。隣接する東京都と神奈川県では、お互い道路や川が非常に入り組んでいます。確かに、東京都が管轄する川はレベルが高く、神奈川県側ではグレードダウンしている状況で、まさにおっしゃる通りです。現在飯島が取り組んでいる、独立水系の境川も、東京都と神奈川県が管轄している川（上流部は東京都町田市と神奈川県相模原市の都県境となっている）で、先日、地元の説明会がありましたが、神奈川県側から、「我々は右岸側なので、東京都の工事は関係ない」と言われました。だったら、東京都側の護岸だけ高くして、神奈川県側の護岸は低くても良い

のか、ということになります。それくらいレベルの低さがあるので、町田市長が神奈川県庁に出向き要請したところ、「うちはお金が無いですから」と言われ、町田市長は頭を抱えている状況です。そうは言っても、住民にとっては「道路は道路、川は川」であって、どこの管轄かは関係ありません。時間はかかりますが、行政間で連携できるように努力してまいりたいと思います。

(富国生命保険相互会社 立川支社 市場開発課長 梶田 俊樹 様)

地元市民の方からも意見が出ていましたが、清流と言うと、ホタルのイメージが強いのですが、実現は難しいでしょうか。

(飯島 様)

川の周りに住宅が沢山建つと、どうしても川の幅を広げて水が沢山流れるようにしないとイケなくなります。ホタルが生息する川というのは、もっと川幅が狭くなければ難しいと思います。また、昔から、田んぼには平家ボタル、森の中には源氏ボタルが生息していましたが、田んぼもどんどん無くなってしまい、平家ボタルを見ることも難しくなりました。すぐにホタルは難しいと思いますが、私どもでは川幅を広げて、川が自然に蛇行するような、自然に近い川の整備を進め、色々な生物が棲めるよう心掛けております。

(明星大学 理工学部 准教授 藤村 和正 様)

以前、多摩ニュータウンが出来る前と後での、大栗川の流量の変化について研究したことがありますが、都市化が進むと、平常時の流量が少なくなります。ホタルの復活を望むのであれば、平常時の流量をモニタリングし、それをどうコントロールするかを考えるべきだと思います。データを公開していただければ、ぜひ解析してみたいと思います。

(飯島 様)

我々は境川のデータはとっていますが、大栗川は国交省さんがデータをとっていますので、ホームページをご覧になるか、問い合わせいただければと思います。

(事務局)

他に質問がないようでしたら、飯島様に今一度拍手をお願いします。飯島様、有り難うございました。

## 4. 経過報告

(事務局)

それでは、経過報告に移ります。12月の活動部会以降の当フォーラムの活動につきましては、お手元の資料の表紙に時系列でお示ししております。始めに(1)～(4)につきまして、宮坂常務よりご説明させていただきます。

(1) 第2回・「多摩川流域の魅力再発見事業」連絡協議会開催(12/22)【資料1】

(2) 第3回・「多摩川流域の魅力再発見事業」連絡協議会開催(1/13)【資料1】

(3) 東京都・地域資源発掘型実証プログラム事業(多摩川カヌー駅伝等)公表(1/15)【資料1】

(4) 第4回・「多摩川流域の魅力再発見事業」連絡協議会開催(2/22)【資料1】

- ・ 【資料1】をご覧ください。多摩川カヌー駅伝については、東京都が企画提案という形の公募をされ、当フォーラムがカヌー駅伝について立候補したところ、採択されました。6月からこの動きをとり、8月頭に採択されました。実際の事業委託はJTBさんをお願いしています。11月25日に公民連携の連絡協議会を立ち上げ、計4回の協議会を開催し、内容を詰めてきました。開催まであと10日あまりとなり、まだまだ詰めなければならないことはあるのですが、最後まできちっとやっていきたいと考えております。この事業は年度内に開催しなければならず、寒い時期に実施しなければならない辛い状況ですが、3月5日(土)にカヌー駅伝を開催し、併せて、それを観戦する人たちとして、モニターバスツアーを開催します。当日、カヌー駅伝を観戦した後、翌日は、当フォーラムの事業である「多摩川酒蔵街道」や「多摩の物語」を楽しんでいただく予定です。駅伝に関しては、堰を中継地にして次の選手にバトンタッチしますが、我々はその堰にフォーカスを当てています。多摩川には、8つの堰があります。そのうち、今回は4つの堰を活用し、約17kmのコース設定となっています。このコースは6市をまたがっており、5つの市長さんが開会式や表彰式に来ていただく予定です。八王子市さんにおいては、本日ご出席されている守屋様が、市長のメッセージを代読される予定です。また、京浜河川の事務所長さんにもご来賓いただく予定です。かなり注目度が高くなっています。当フォーラムは、今回は企画と運営で関わっておりますが、フォーラム設立10周年記念事業のひとつとして、もっと暖かい時期に開催出来ればと考えています。これは事務局提案として、後ほどの意見交換でもお話させていただきたいと思っております。開催日が迫ってまいりましたが、もしご関心のある方は、ぜひ観戦に来ていただければと思います。

(5) 事務局用パソコンの更新について(1/28 運営委員会)【資料2】

- ・ 【資料2】をご覧ください。1月28日の運営委員会において、第2号議案として承認をいただきました。現在パソコンを発注中で、来月に設置する予定です。

(6) 平成28年度事業計画骨子・同予算（事務方素案）(1/28 運営委員会)【資料3】

- ・ 【資料3】をご覧ください。1月28日の運営委員会において、第1号議案：平成28年度事業計画骨子・同予算（事務方素案）が承認されました。後ほどの意見交換において、ご説明させていただきます。

(8) 公益財団法人とうきゅう環境財団・2015年度多摩川およびその流域の環境浄化に関する調査・試験研究（「多摩の物語」関係）進捗報告について【資料回覧】

- ・ 今年度の調査研究活動は、計画どおり順調に進捗しています。昨年3月4日に羽村市において開催した「多摩の物語」を小冊子に纏めているところで、3月初旬に完成の予定です。本日は、一足先に最終稿を回覧させていただきますので、どうぞご覧くださいませ。

～平成28年度の予定～

(1) 多摩川夢の桜街道～桜の札所巡り事業

- ① 4/6：第7回“美しき桜心の物語”の語り会（大田区・密藏院大慈閣、語り部・平野啓子副会長）【資料6】
  - ② 4/8：羽村取水堰と玉川上水～福生多摩川堤防、美しい多摩川フォーラム、羽村市、福生市、リビング多摩、大谷桜守、田村酒造場
  - ③ 4/13：高尾・多摩森林科学園～南浅川桜並木と陵南公園、美しい多摩川フォーラム、京王電鉄、リビング多摩、大谷桜守、多摩森林科学園
- ・ 【資料6】をご覧ください。今年は、しだれ桜が見事な大田区密藏院で、ライトアップされた夜桜を愛でながらの開催となります。3月1日から募集を開始いたしますので、お早めにお申込みいただき、会場に足を運んでください。
  - ・ 桜ウォーキングについても、毎年恒例ですが、4月8日と13日に2コースを予定しております。こちらにつきまして、2コースでご協力をいただきますサンケイリビング新聞社の石河編集長に一言お願いいたします。

(サンケイリビング新聞社 エリア営業局多摩本部 編集長 石河 久美 様)

今回、羽村～福生のコースについては、我々と多摩川フォーラムさんの共催で行います。去年も同じコースで開催しましたが、今年は日にちが遅めなので、桜の開花状況が気になるころですが、内容としては、羽村取水堰と玉川上水の桜を楽しんだ後、田村酒造場さんで試飲を含めたお楽しみがあり、お寿司屋さんで昼食を食べて解散になります。多摩森林科学園のコースについては、今回は共催できませんが、我々の誌面でPRさせていただく予定です。募集開始は3月7日（月）です。よろしく願いいたします。

(事務局)

有り難うございました。以上で事務局からの経過報告は終わります。

(藪田部会長)

事務局からの経過報告および当面の予定について、ご質問などありますか。ないようですので、本日の意見交換に入りたいと思います。「(1)平成28年度事業計画骨子・同予算について」について、はじめに事務局の方から説明してください。

## 5. 意見交換

### (1) 平成28年度事業計画骨子・同予算について【資料3】

(事務局)

【資料3】をご覧ください。まず、会費収入は平成27年度着地見通しと同様、2,100,000円を見込んでおります。寄付金として、青梅信用金庫様より8,000,000円、東急百貨店様より300,000円、委託金として青梅市様より250,000円を予定しております。

一方、支出の部ですが、総会等運営費として、4,470,000円、各種活動費として6,790,000円を計上しております。なお、東北・夢の桜街道運動として、例年同様、2,000,000円を計上しておりますが、これは東北復興支援事業として、東北・夢の桜街道推進協議会に拠出します。この結果、次期繰越金見込額は1,343,496円となり、合計では、12,603,496円となります。

次ページは、平成28年度事業計画の主な実施内容になります。その次のページの(参考1)をご覧ください。平成27年度は計画どおり順調に推移しております。

次のページの(参考2)をご覧ください。今年度も、年度末には年間を通じて、50を超える事業活動を実施することになります。後ほど、じっくりご覧ください。

(藪田部会長)

それでは、既存の事業について、ご質問やご意見がありましたら、お願いします。なお、第1号議案は、最終的には、総会提出議案を審議する3月16日開催の第3回運営委員会にて、最終決定されますことをお含みおきください。特にないようでしたら、美しい多摩川フォーラム設立10周年記念事業(平成29年度)について、事務局から説明してください。

### (2) 多摩川フォーラム設立10周年記念事業(平成29年度)について【資料7】

(事務局)

【資料7】をご覧ください。2枚目～3枚目は、10月からの活動部会から、前回の第2回運営委員会までで出た意見になります。これらの意見をよりコンパクトにし、

まとめたのが1枚目になります。10周年は、来年4月から始まる年度です。あと1年1ヵ月ありますが、平成28年度上期のうちに、ある程度の予算付けをしておかないといけませんので、今日の部会が皆さんの意見を伺う最後の機会となります。5月の総会では、来月の運営委員会で出た意見も合わせてまとめたものを、皆さんにお示ししたいと思っています。今日は時間が許す限り、貴重なご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(藪田部会長)

これまで出た意見は、大きく分けて、10周年だからやる単発的な事業と、10周年をスタートとして更に発展させる事業と、2つあります。部門としては、経済・環境・教育文化、そしてそれら全てに関わる総合と、4つあります。どういう視点でも結構ですので、本日も出席の皆様から順番に一言お願いします。

(八王子市 守屋 様)

東京都の水再生センターが八王子市小宮町にあり、大きな施設なので、その施設の中で何かイベントが出来れば良いと思います。

(狛江市 企画財政部 政策室 企画調整担当主事 佐々木 淳樹 様)

多摩川カヌー駅伝について、先ほどお話を伺い、成功するイメージが浮かんできました。狛江市では、いかだレースを25年続けておりますので、ぜひ連携させていただきたいですし、何かご協力できればと思います。

(山崎教育文化副部会長)

教育文化の副部会長を務めておりますので、この件に関しては、平野さんにお任せしておけば良いのかなと思いますが、子ども環境シンポジウムの大人版が出来たら良いと思います。色々な行政、団体、法人会員がいますので、「我々は多摩川のためにこういう事をしています。」というシンポジウムが出来たら良いと思います。

(堤地域経済活性化副部会長)

私は既に運営委員会で発言し、その意見を資料に載せていただいておりますが、他の意見にある記念誌については、私も賛成です。ただし、記念誌の在り方として、一度見たら終わりになってしまう分厚い冊子ではなく、予算との兼ね合いもあると思いますが、WEB発行にしたらどうかと思います。今までの活動もビデオで残してありますし、ビジュアルでフォーラムの活動や多摩川の景色、桜の様子などを電子媒体で残したら良いのではないかと思います。

(石黒 様)

今まで寄せられた意見は、どちらかと言うと、10年間の集大成に感じます。集大成プラス今後の10年を考えると、先ほど山崎副部長から提案のあった大人のシンポジウムは良い案だと思います。集大成だけで終わらず、今後に繋がる事業にしたら良いと思います。

(東急百貨店 柴田 様)

既に出ている意見の中で、私の感想を述べると、記念誌のWEB発行は良い案だと思います。今、若い方がアプリを利用されるので、当社でも、紙媒体よりは、そちらのほうが反応は伸びています。せっかく素敵な取り組みをされているので、ぜひ若い方々にも興味を持っていただけるように、WEBでの発信が重要なのではないかと思います。

(明星大学 藤村 様)

これまでの10年は、地域の方に多摩川の良さを理解してもらう10年だったと思います。今後の10年は、外の方から見て、多摩川をどのように思っているのかを考えていくことが大事だと思います。例えば、同じような活動をしている最上川フォーラムの方々が多摩川をどう見ているか、あるいは多摩川フォーラムが最上川をどう見ているかの意見交換からスタートし、地域間交流が始まれば良いと思います。

(特定非営利法人緑の大地会 専務理事事務局長 十河 盾 様)

私どもでは、御岳の森や洗足池公園、長淵水泳場等で桜の植栽のお手伝いをさせていただいております。桜のことを考えると、ソメイヨシノの寿命が近づいていますので、延命措置を取るよりも、新しい桜に植え替えたほうが、「美しい多摩川100年プラン」の趣旨にも合致するのではないかと思います。

(岡崎 様)

【資料7】の中に「ホテルが舞う時期、岩蔵温泉にマイクロバスを仕立てて、地元旅館のランチも楽しめるツアー」とありますが、岩蔵温泉は、荒川水系です。多摩川水系ですと、平井川、秋川、羽村など、ホテルが生息する場所がありますので、多摩川水系で選んでいただければと思います。さて、本題ですが、多摩川フォーラムの事業に「多摩の物語」がありますが、私は今日、「立川の昔話」という本を500円で購入しました。昭和の時代に出版されています。青梅や奥多摩でも昔話をまとめた本はありますが、今は自治体にもお金が無いので、こういう本を出版することができません。青梅に良い本があるのですが、図書館にあるだけです。多摩川流域にある本を集めて、まとめたらどうかと思います。しかし、紙媒体で印刷するとお金がかかるの

で、ホームページに載せてPRするのも良いのではないかと思います。

(富国生命保険相互会社 立川支社 市場開発課長 梶田 俊樹 様)

10周年記念事業について、以前から宿題になっていましたので、事前に考えてきました。別紙の資料をご覧ください。町おこしをするには、子どもから大人まで楽しめるものということで、プロレス+クリーン活動を考えました。プロレスをやれば人が集まりますし、クリーン活動の周知もできると思います。資料で紹介している大日本プロレスは、プロレス興業以外に町おこしやボランティアもやっていて、横浜市の商店街で実際に町おこしを行っています。

(福本 様)

私は東大和市に住んでおり、目の前に野火止用水が流れています。先日、ロンドンの大学の方が、調査名目で、散歩を兼ねながら流域を調査していました。調査と言っても、ブラブラと歩きながら、流域に住む人々に声を掛けるような調査です。先ほどお話があったように、国際化を考えると、紙媒体よりも電子媒体のほうが良いと思います。また、多摩川カヌー駅伝は成功すると思いますが、そこに参加した、特に若い方と、海外の方を繋ぎとめられるような、一度参加した人を離さない、次に繋がるアイデアがないかと日々考えております。

(アルピン株式会社取締役社長 村岡 秀樹 様)

シンボル・マークやキャラクターについては、色々な形で流布していくことを考えると、必要だと思います。収益性があっても良いと思います。シンボル・マークやキャラクターは、公募も考えられますが、事務局で何種類かを提案して投票などで採択するのが良いと思います。通常、こういうことは代理店を通すと大変お金がかかるので、私どもとしては、できるだけ費用がかからないように開発に取り組んでも良いと思っています。美しい多摩川フォーラムが成功すれば、そのスキームは必ず全国に波及していくと確信しております。100年で考えれば、10周年は残り90年の第一歩だと思いますので、イベントにしても、今後に繋げられるものが良いと思います。何らかのご協力はしていきたいと思っています。

(近畿日本ツーリスト株式会社 首都圏西団体旅行支店長 前田 裕彰 様)

私は先日まで横浜に住んでおりました。海は近いですが、川はありませんでした。よそから来たものが「川に行く時はどんな時だろう」と考えたら、カヌーのようなスポーツイベントもありますが、一番多いのは花火大会だと思いました。また、会合に参加して2回目ですが、いつも楽しみにしているのは、「多摩川の歌」です。多摩地域は人口が多いので、音楽で人を繋いでも良いのではないかと思います。明星大学

の藤村先生がおっしゃっていたように、今までの10年は多摩地域を中心に組織作りをしてきた内向きな10年だとすれば、これからの10年は、対外的な発信と広域連携の輪を広げていく10年であるべきだと思います。全国や全世界には、同じようなテーマで同じような活動をしている団体があると思います。フォーラム会員には、弊社をはじめ、青梅信用金庫さん等、全国にネットワークを持っている企業さんがいらっしゃると思いますので、川をテーマに活動されている地域と連携をして、相互交流が図れればと思います。

(株式会社JTBコーポレートセールス法人営業東京多摩支店

営業第二課長 加藤 太 様)

10周年ですので、いかに多摩川に注目していただくかが大切だと思います。交流人口を増やすには、多摩川の魅力をいかにアピールしていくかが大事だと思いますので、それをテーマにした10周年記念事業が良いと思います。実際にお手伝いしている側としても、多摩川カヌー駅伝は、一翼を担うものであると思います。多摩川にかかる橋を渡る親子は、普段なら立ち止まらないと思いますが、カヌー駅伝の試走を行った時は、立ち止まって多摩川をちゃんと見ていってくれました。カヌー駅伝で多摩川を十分アピール出来ると思っています。地元の方が、多摩川に対して誇りや興味を持っていなければ、外向きにアピール出来ないですし、それをもとに人が来ることもないと思います。狛江市さんでやっているいかだレースは、それがアピール出来ているから25回も続いていると思います。多摩川カヌー駅伝は、今回初めての開催ですが、それを上手くアピールできれば、今後、多摩川フォーラムが行う多摩川のアピールが出来ていくと思いますし、それをやるには10周年でのイベントが第一歩になると思います。10周年だからやるのではなく、10周年を機にはじめるイベントになれば良いと思います。

(軸丸 様)

先ほど意見が出ました、大人のシンポジウムに大賛成です。ただし、やり方ですが、シンポジウムだけだと大雑把に感じますので、パネル展等を開催し、各部会の方がパネルの前で来場者に説明するのも良いと思います。また、私は趣味で写真をしており、フォーラムでも以前、フォトコンテスト作品展をやっていたと思いますが、もっとレベルの高い、プロの方の写真展を併設し、多摩川のある風景の美しさをアピールしたら良いのではないかと思います。実務的に効果があり、なおかつ余りお金のかからない事業を10周年として行うのが良いのではないのでしょうか。

(クラブツーリズム株式会社 取締役地域交流部長 梶田 隆弘 様)

旅行会社の立場として申し上げます、「多摩川夢の桜街道」の札所88カ所は、良

いプランだと思っています。ただ、今は点になっているので、線で繋げて、歩いて回るプランを10年間でやったらどうかと思います。1日～2日間の設定で88カ所を歩くには、1日あたり8～9カ所周る必要がありますが、ゴールでは地元の美味しいものが食べられて、満足が得られるようなコースを設定したらどうかと思います。ウォーキング・イベントですが、お金を少し取って、得られた額を桜の植樹にまわせば良いのではないのでしょうか。それによって、交流人口の増加に寄与できますし、桜の維持・再生もできます。桜の札所が88カ所あっても、どうやって行ったら良いのかを分かり易くしないと、交流人口の増加までいかないのではないかと思います。先ほど電子媒体化という話がありましたが、スマホを見れば道が分からなくてもナビをしてくれるアプリを開発すれば良いのではないかと思います。東京都内にはかなりの外国人観光客が入って来ていますが、多摩地域にはまだまだ来ていません。桜と富士山はインバウンドで重要なキーワードですし、多摩川酒蔵街道についても同じようにしたら良いのではないかと思います。

(サンケイリビング新聞社 エリア営業局多摩本部 編集長 石河 久美 様)

多摩川フォーラムは非常に良い活動をしています、対外的な発信はまだまだ足りません。フォーラムの存在自体を知らない人が沢山いると思います。10周年に記念誌を作るのは良いと思いますが、誰に対して何を残す10年なのかを考えて、先ほども意見が出ましたが、多摩川流域の住民に、多摩川に誇りや関心を持ってもらうための一歩としての位置付けとして考えたほうが良いのではないかと思います。ゆるキャラやゲーム、アプリ等の話も出ましたが、若い人に残す、訴えていくのは一つの手法だと思います。私などは、なかなか新しい考えについていけないのですが、若い人たちにいかに多摩川に関心を持ってもらうかに特化するのも手だと思います。また、「多摩川の歌」の合唱も非常に良いと思いますが、なかなかメジャーにならず、もっと皆に親しんでもらいたいと常々思っております。例えば「多摩川音頭」のような、盆踊りを作り、流域の老若男女に踊ってもらうのはどうかと思います。

(福田 様)

私は、地域を活性化するため、手始めに、弱体化していた「多摩川でボートを楽しむ会」を支援することから始めました。その他、いくつかの団体の立ち上げも支援し、軌道に乗るようになりました。しかし、高齢化により、後継ぎがおりません。多摩川フォーラムPRの有効手段があれば、それを拝借し、若い人の育成をしたいと思いますので、石河さんの発言をぜひ実現させてください。

(青梅市 建設部計画調整担当主査 輪千 徳也 様)

以前、JR東日本の「中央線が好きだ。」に、多摩川の情報も載せてもらうという

意見が出ましたが、私は案外良い提案だと思っています。ただ、電車の中ではなく、車体のラッピング広告にしたらどうかと思っています。例えば中央特快を、桜のピンク一色にラッピングし、美しい多摩川フォーラムの文字を入れれば、「これ、何だろう？」と検索すると思うのです。10周年を機に、フォーラムを不特定多数の人に知ってもらえるのではないのでしょうか。ただし、費用は全く考慮していません。

(調布市 環境部環境政策課環境保全係主事 田辺 隆文 様)

多摩川漁協調布市部では、東京オリンピックに向け、多摩川の江戸前アユを外国人の方に食べていただく検討をしています。そういったものとコラボレーション出来ないか考えています。また、まずは足元という意味で、多摩川の上流と下流では環境が全く違うので、夏休みに小学生を対象に、下流の子どもたちを源流に連れて行き、また源流の子どもたちを下流の川崎や大田区に連れて行き、色々な体験をさせたら良いのではないかと思います。

(藪田部会長)

有り難うございました。今日の発言キーワードは、「ヤング」「IOT」「交流」でした。恐らくこれだけご意見をいただいたのは、会が始まって以来ではないかと思えます。非常に有益なコメントをいただきました。最後にまとめという形で、南多摩東部建設事務所長の中村様からご意見をいただきます。

(東京都建設局 南多摩東部建設事務所長 中村 守宏 様)

改めて、多摩川は美しい、桜も美しいと思いました。平成26年度まではフォトコンテストをやっていたと思いますが、東京都建設局河川部でも「川のフォトコンテスト」を毎年実施しております。何らかの事情があってフォトコンテストの実施を終了したのだと思いますが、これまで実施したフォトコンテストの貴重な作品が積み上がっていると思いますので、アーカイブで電子媒体として公表されたらどうかと思えます。また、【資料7】にあります、「ドローンを活用した多摩川の空撮」も素晴らしいアイデアだと思います。多摩川を上空から見れば、新たな発見もあると思いますので、その映像等を色々な形で有効活用されれば良いと思います。

(藪田部会長)

有り難うございました。誤ってドローンが首相官邸に落ちなければ良いなと思えます。確かに多摩川上空を映すことを考えるとワクワクしてきます。ぜひ見てみたいです。本日いただいた貴重なご意見は、後日まとめさせていただきます。

## 6. 総括（部会長）

（渡邊部会長）

今日は、大栗川の環境整備について、貴重なお話をいただき、有り難うございました。私も15年前、ドイツの川を見ましたが、当時は日本の川に比べてヨーロッパの川は素晴らしいという感想を持ちましたが、ようやく日本も、地域が親しめる川が復活し、大変頼もしく思っております。私に関わっている青梅市の霞川も、ほぼ工事が終わり、きれいな歩道が整備され、毎日お年寄りが散歩して、健康増進に励んでいますし、子どもたちも川に下りられるようになりました。カワセミも沢山いるので、カメラマンが早朝からシャッターチャンスを狙っています。東京都さんも、ドイツに負けないように、頑張ってくださいと思います。また、10周年については、山崎さんから意見がありましたように、多摩川に関して様々な活動をしている人たちが一堂に会して展示をする大人のシンポジウムも良いと思っています。

（藪田部会長）

私の多摩川との関わりは、多摩川の「最初の一滴」という、源流研究所の中村文明さんの写真を見た時からです。とても感銘を受けました。そういった意味では、先ほど意見のあった、写真展もひとつのアイデアかと思っています。

## 7. 閉会（事務局）

（事務局）

長時間に渡り、有り難うございました。今日は東京都さんから素晴らしいお話を伺い、これだけ質問が多かったのは初めてだと思います。いかに内容が素晴らしく、皆さんの意識も高かったということだと思います。また、10周年記念事業についても、全員から意見をいただき、有意義な会になりました。今年度については、本日で部会は終了となりますが、何かご意見等がございましたら、事務局のほうにお寄せください。ただし、全て実現することは難しいと思いますし、予算やマンパワーの問題もありますが、出来る限り皆さんの期待にこたえていきたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。本日は大変有り難うございました。

以 上